

1 審議会名	上田市行財政改革推進委員会
2 日 時	令和7年12月22日 午前9時00分から午前9時30分まで
3 会 場	上田市役所本庁舎4階 第一応接室
4 出席者	岩木会長、藤川副会長
5 市側出席者	小林行政管理課長、小林行政改革担当政策幹、久保井行政改革担当係長、 荒木行政管理課主査、佐藤行政管理課主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和7年12月23日

協 議 事 項 等

1 開会

2 答申

- (1) 岩木会長から市長に対し答申書を手交。
(2) 事務局から答申の概要を説明。

3 市長あいさつ

岩木会長、藤川副会長をはじめとした上田市行財政改革推進委員会の皆様には、5月の諮問以降、長期間にわたり精力的にご審議いただき、「第五次上田市行財政改革大綱(案)」並びに「上田市公共施設等総合管理計画(案)」についてまとめていただいたことに、深く感謝申し上げます。

上田市は、4市町村の合併から20年を迎え、市を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進展、財政状況の厳しさなど、かつてない課題に直面している。その中で、持続可能な行政運営を確保し、市民サービスの質を維持・向上させるためには、公共施設マネジメントを含む行財政改革の不断の推進が不可欠である。

今回の答申は、こうした課題に応えるための重要な指針であり、委員の皆様の高い見識と熱意に改めて敬意を表す。また、この答申を真摯に受け止め、具体的な施策へと反映させ、改革の実効性を高めていきたい。

4 懇談

(市長) 委員のみなさんにかなり熱心にご意見をいただいたと聞いている。

(委員) 4回会議があったが、毎回時間が延長になるほど活発な議論となった。それだけみなさん熱意をもって、自分の意見や疑問を述べていただいたということと思う。

(市長) 特に公共施設をこれからどうするのか、という大きな課題がある。

(委員) 公共施設等総合管理計画を進めていくためには、どのように優先順位をつけて、市民にどう説明していくか、というところが大変だと思う。

(委員) 武石地域自治センターの新庁舎建設の時に委員として参加したが、大きく面積を減らすこととなった。市民もその状況と必要性を理解すれば、100%納得じゃないけど、それは仕方ないということを理解したり、共感したりしていただけたと思う。

(市長) 確かに今まで使っていた場所がなくなるのであれば理解を求めなければならないが、一方で、施設の老朽化も進んでおり、どうやって安全性も担保していくかも課題としてある。

(委員) 市民は市の説明を聞いて「それを賛成するか反対するか」ではなく、「市民と一緒に考える」場を増やしていく必要がある。不便になる方もいるかもしれないが、市長も12月議会で、痛みを伴う場面もあるかもしれないが、未来に繋ぐためにこういった改革が必要と発言していた。それを行政

だけで考えるのではなくて市民も一緒に考えられるように、例えばこういったデータをわかりやすく、その都度なぜこの改革をしないといけないか、財政状況とか、他の課題を、市民にもなるほどって思えるような説明、目線合わせをした上で意見を聞く仕組みを進めていけばいいと思う。

(市長) 大事な視点だと思う。

(委員) 「一緒に勉強する」仕組みは「上田リバーズ会議」という会議で行っている。行政が提供して市民に勉強してもらう形ではなく、一緒に勉強し対話する形がいいと思う。例えば、前提となるデータや情報の共有を丁寧にすることでスムーズに理解を深めることができる。ただ講演や説明を聞くだけでなく、意見を聞き合うなど他の人と対話することで、「自分ごとになりやすい空気」を作ることが大切。

(委員) 委員会では自治会の運営が大変という意見が多く挙がった。パソコンを使わなければいけないけどわからない、若い人にも手伝ってほしいが、働いていて生活がかかっている中では難しい、といった行き詰まりがある。どういう形がいいのか、この委員会の趣旨とはずれていることは承知しているが、自治会のあり方に関する意見が多かった。

(市長) 結局、自治会長が全部やる必要があつて、負担が大きくなってしまっている。

(委員) 自治会に出れば時間は取られるが、つながりはできるし、祭りも楽しくなると思う。

4 閉会